データ① 抗腫瘍活性の比較

食用キノコはもちろん他の薬用キノコと比べても、キング・アガリクスの抗腫瘍活性は極めて高い。

キノコに含まれる酵素『ポリフェノールオキシダーゼ』『ペルオキシダーゼ』は、抗腫瘍効果を高める活性因子『インターロイキン8』の生産量を増やす働きをします。

キング・アガリクスは、抗腫瘍活性の主役となるβ-グルカンを多く含む（P.5を参照）だけでなく、これらの『ポリフェノールオキシダーゼ』『ペルオキシダーゼ』も多く含み、β-グルカンと一体となって、極めて高い抗腫瘍効果が期待できます。

『ポリフェノールオキシダーゼ』『ペルオキシダーゼ』とは

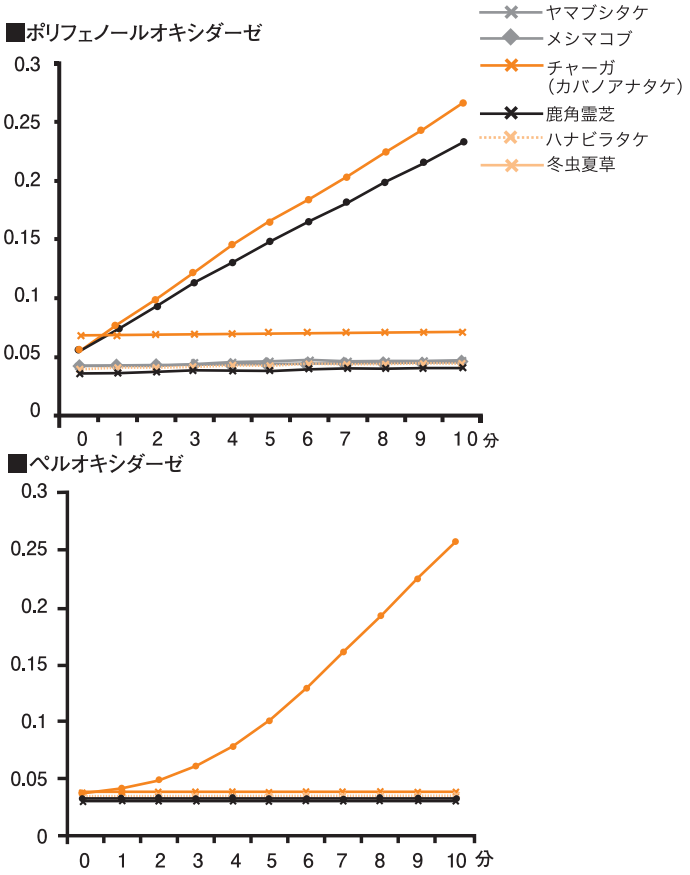
ともに活性酸素の発生を抑制する酵素。『ポリフェノール』は赤ワインやチョコレートなどに含まれていることで有名ですが、『ポリフェノールオキシダーゼ』は、ポリフェノールを活性化させる役割を果たします。

『インターロイキン8』とは

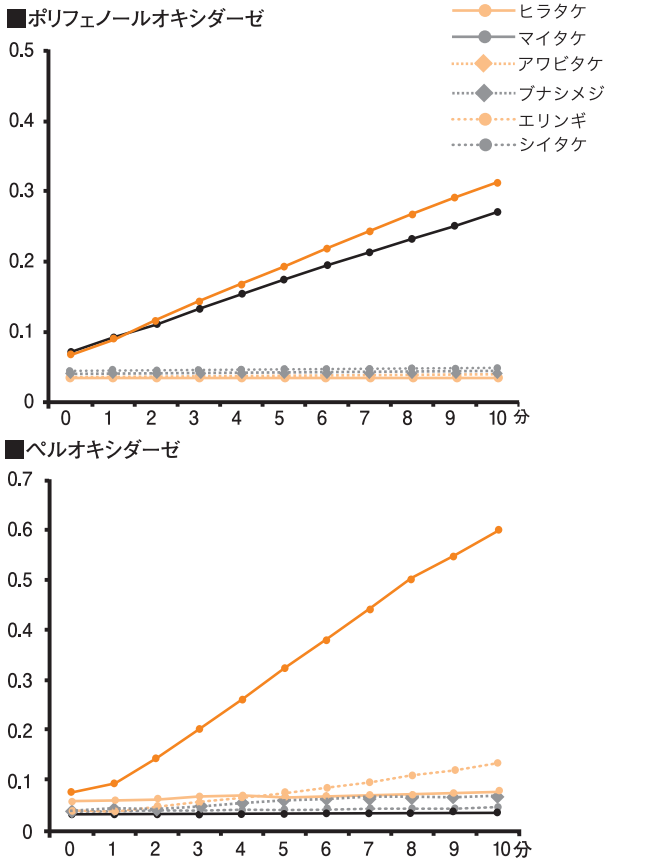
がん細胞などを検知して破壊するNK細胞（ナチュラルキラー細胞）をはじめ、リンパ球や白血球などの免疫細胞を活性化させる物質。がん治療においてインターフェロンなどとともに注目されています。

●各種キノコは市販のものを使用し、実際に食べる状態に近いもので比較しています。
●凍結乾燥後に粉末化して冷水抽出し、各酵素活性を1分ごとに10分間測定しています。

薬用キノコを比べてみよう



食用キノコを比べてみよう



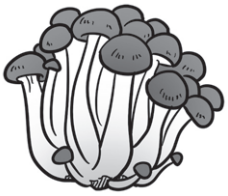
食用キノコ、薬用キノコともに実際に摂取する（食べる）のに近い状態で比較してみると、グラフからもわかるように、ポリフェノールオキシダーゼはキング・アガリクスとハウス栽培アガリクス、ペルオキシダーゼはキング・アガリクスのみに高い抗腫瘍活性が認められました。

データ① の実験で比較したキノコ一覧

食用キノコ

●ヒラタケ
ほぼ1年中、さまざまな広葉樹に発生。街路樹に見かけることも。傘は若いうちは縁が内側に巻き、成長すると開いて波打ちます。風味が良く、揚げ物をはじめ幅広い料理に利用。

●ブナシメジ
ブナなどの広葉樹に群生。傘は中央部が淡い褐色で縁は白っぽく、中央部に斑状の大理石模様が見えます。柄は白色で内部はしっかり詰まってしっとりしています。料理の幅もワイド。



●マイタケ
柄が分岐して枝状になり、傘はへら形。5kg以上の大株になることもあります。傘の裏側も肉も白く、壊れやすいのも特徴。天然物の風味は抜群。どんな料理にも合う万能キノコ。

●エリンギ
歯ごたえが良く、食感はマツタケや加熱したアワビに似ているとされています。食用キノコの中では糖質を多く含むのも特徴。種々の味付け·香り付けを施して調理されるのが普通。

●アワビタケ
香りが強く、弾力があって歯ごたえの良い食感が特徴。アワビタケの名は、シコシコとした食感がアワビの持つそれと似ているため。近年、中国大陸から入ってきた食材です。

●シイタケ
日本では古くから食されてきた馴染み深いキノコ。傘は若いうちは饅頭型で、成長すると平らに開きます。『どんこ』は傘が蕾のときに収穫したもの、『香信』は傘の開いたもの。

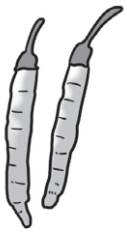
薬用キノコ

●キング·アガリクス
独立行政法人産業技術総合研究所特許生物寄託センターに登録の『キング·アガリクス21菌(KA21)』の菌株を使い、大自然が広がるブラジルの青空の下で自然露地栽培されるアガリクス。

●霊芝
サルノコシカケの一種であるマンネンタケのこと。肉質はコルク質様で表面はニスがかけられたような光沢があります。歴史の古い漢方素材の一つで、一般に食用にはされません。

●日本産ハウス栽培アガリクス
品種改良されたアガリクスを、太陽の光を遮断した真っ暗な小屋の中で人工栽培したもの。したがって、自然露地栽培のキング·アガリクスのようなサイズや含有成分は得られません。

●冬虫夏草
コウモリガなどの幼虫に寄生し、栄養分を吸収しながら菌糸を培い、暖かくなると発芽するキノコ。採取し乾燥させ、漢方の生薬や中華料理の薬膳食材として珍重されてきました。



●ハナビラタケ
花びら状の薄い傘が集まって葉ボタンのような形をした大型のキノコ。マツやモミなどの切り株や枯幹の根元に発生し、遠くから見るとウサギのように見えます。食用にも向きます。

●チャーガ(カバノアナタケ)
表面は黒くゴツゴツとした凹凸があり縦横に亀裂が走っていて硬く、内部は褐色で、まるで石炭の塊のような姿をしています。何年もかけて成長する多年生。食用には向きません。

●メシマコブ
桑などの古木の幹に直接寄生するキノコで、漢方薬としても古くから使われています。名前は、長崎県の女島が有名な産地であり、姿がコブ状であることから付けられたものです。

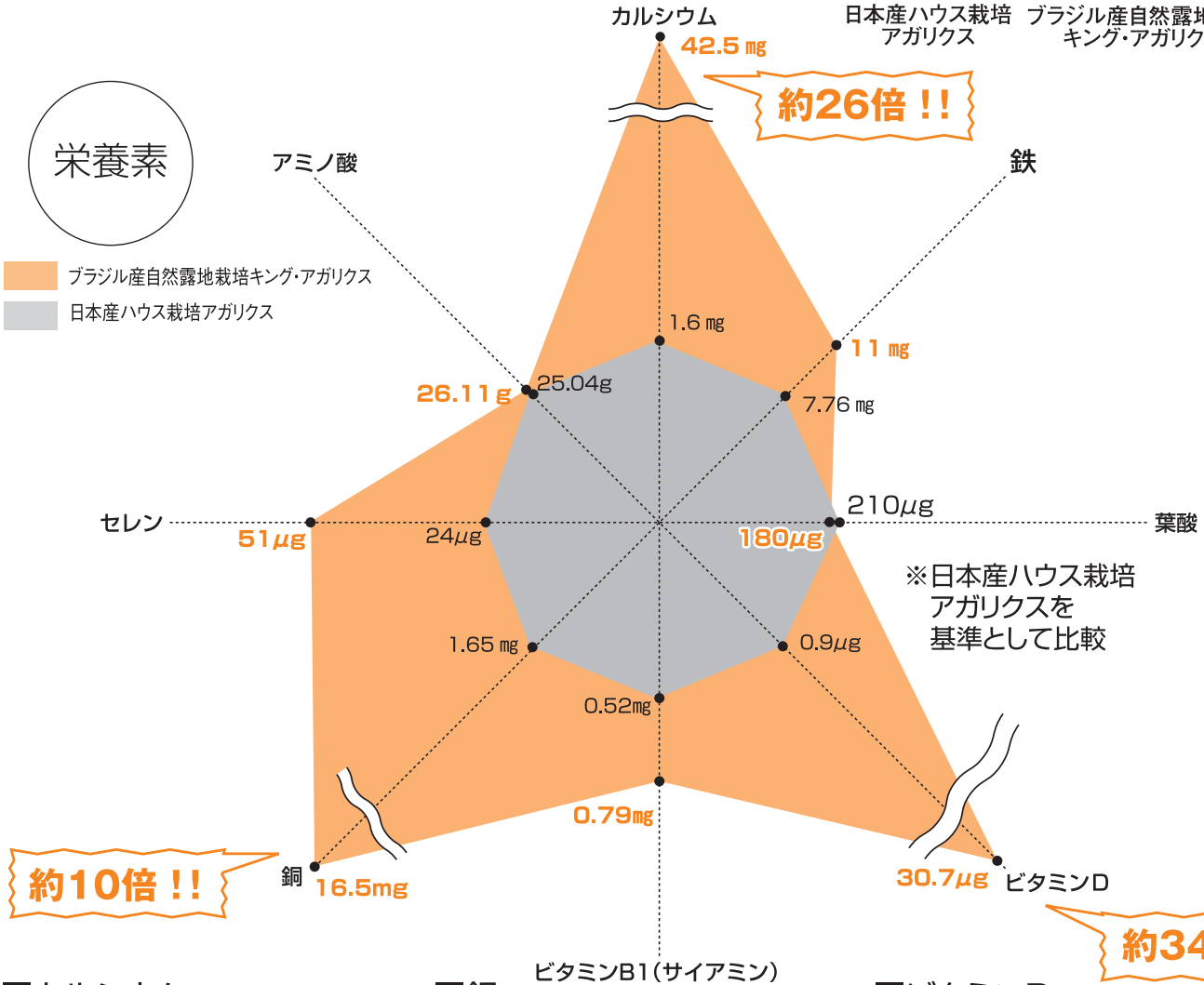
●ヤマブシタケ
白くて柔らかいトゲを無数に垂らした球状のキノコ。名前は山伏の衣装に付いた胸の飾りに似ていることにちなみます。食用にもなり、別名ハリセンボン、上戸茸、シシガシラなど。

データ② ミネラルなどの比較

ブラジル産自然露地栽培のキング･アガリクスは、日本産ハウス栽培よりもミネラルなどの成分が多い。

ブラジルの肥沃な大地で育つキング･アガリクスと、暗い小屋の中で育つハウス栽培アガリクスは、見た目も成分も違います。キング･アガリクスの方がハウス栽培に比べて、見た目は5倍ほど大きく、成分はミネラルではカルシウムと銅、ビタミンではビタミンDを極めて多く含みます。

日本産ハウス栽培 アガリクス　ブラジル産自然露地栽培 キング･アガリクス



■カルシウム

骨粗しょう症の予防に重要なほか、神経のいらだちを抑え、また、筋肉の収縮をスムーズにし心臓を正しく鼓動させる働きもあります。不足すると歯や骨の質が悪くなり、腰痛や肩こりの要因にもなり、さらには血行や血液にも悪影響を与え、高血圧や動脈硬化にもつながります。

■銅

鉄が充分にあっても銅がないとヘモグロビンがうまく合成できず、貧血になります。また、銅が不足すると髪や皮膚の色が抜け落ちます。さらには、骨粗しょう症の予防や、血管壁がもろくなって起きる動脈硬化などの予防にも、銅は重要な役割を果たしています。

■ビタミンD

カルシウムやリンが充分にあっても、ビタミンDがないと健康な骨はできません。ビタミンAの吸収を助ける働きもあります。また、前立腺がん、直腸がん、乳がんなどの患者の予後に影響を与え、発症リスクの低下、死亡率の低下がみられるという報告があります。